

平成21(2009)年度 卒業研究要旨

11060001 青柳ひとみ

「日本のミュージカルの歴史とこれから」

日本でもブロードウェイ・ミュージカルが多くの観客を魅了し、毎年多くの作品がロングランを記録している。ここまで人々をひきつける魅力の裏側には何があるのか。現在の日本版ミュージカルが完成するまでの歴史や変遷、また、本場ブロードウェイとの興行形態の違いや舞台製作の裏側、ミュージカル・演劇界の現状、これからの日本のミュージカルに求められる課題は何なのかなどを考察した。

11060002 秋保 俊介

「現代の若者達の言葉について」

主に、現在の若者達が仲間内で使う言葉、俗語など若者言葉を調べた。最近では流行語になったり、国のトップ達も略語を良く使っている。今現在使われている若者言葉のルーツは、どこにあるのか、定義、時代別に調べた。それから、若者言葉が生まれる背景を調べた結果、その時々の特徴が見えてきた。

若者言葉に興味を持ち、今回楽しく調べることが出来た。私も新たな若者言葉をぜひ作って見たいと思う。

11060003 阿部 茂雄

「演劇から自己をみつめる」

私は大学四年間演劇をしてきたが、そもそも演技をする側も、演技を見る側も、どんな形であれ、みんな演劇というものが好きだろう。しかし、そもそもここまで人を、私を魅了する演技とは一体何なのか、何故ここまで人を引きつけるのだろうか。

そういった事を歴史、演じる側の観点から見ていきたい。演劇とはどういうものか、どうやったら俳優になれるのかといった事を改めて調べ、考え、それらを通して自己を見つめていきたいと思う。

11060004 荒 伸彦

「ロックと資本主義」

ロックとは「抵抗」の音楽である。生まれた背景には、1950年代当時の人種差別や社会問題などアメリカ南部の黒人の憤りがあった。怒りを込めたその音楽に大衆は魅了されたのである。

だが、やがてロックは資本主義に飲み込まれ商業的指向を強めていく。そこには、反抗心の欠片

もなかった。ロックが抱いた怒りはどこへいき、ロックが対峙した敵は何だったのか。娯楽性と売上げを気にした資本主義とロックとの関係を考えて。

11060005 新井 隆時

「公立中学校における制服制度の変遷」

現在、公立中学校の大半の学校が制服制度を取り入れている。小学校までは私服であったにもかかわらずだ。この制服制度は、いつの時代から始まったのか、現代と戦前とでの学校教育における服装の違いを調べ考察して見ようと思う。

また、それに伴う公立中学校の歴史の変遷や日本の制服制度に多大な影響を与えた軍隊の服装についても調査して考察し論述していく。

なお、今回は「公立」ということに限定して進めていく。

11060006 石澤 有未

「日本語教師のカルチャーショック」

近年、留学生の増加に伴って日本語教師を目指す人が増加傾向にある。日本語教師は異文化接触が多い現場であるためカルチャーショックを受けることが多々あるが、その事実はあまり知られていない。そこで、本研究では国内の日本語教師にアンケートを行い、カルチャーショックの内容や対応・意識の変化などの実態を調査した。

また、一般の方と比較し、日本語教師に求められることは何かを筆者の教壇経験をふまえ考察した。

11060008 市田 昭子

「天狗について」

天狗と聞けば、誰しも赤い顔で鼻が高く、山に棲み空を飛ぶ妖怪を思い浮かべるだろう。誰に教わるでもなく、いつの間にかそのイメージを持っていたように思う。そこまで世間一般に知れ渡っている天狗だが、一体いつ頃から日本で伝承されているもので、今のようなイメージはどのような流れで定着したのか。『今昔物語集』を中心に読み解いていく。また、山神という認識はなぜ生まれたのかについて山伏との関わりから考察する。

11060009 出利葉知美

「恋愛における人の距離感について — 日韓大学生の比較 —」

現在日本と韓国の交流は目ざましく、日常生活において韓国人と関わる機会も多々ある。日本と韓国のコミュニケーションを比較した研究も増え、日韓の違いが明らかになってきている。日韓の大学生を対象とし、「恋愛」における人の距離感や異同を明らかにしたのが本研究である。アンケートで場面設定をし、行動の有無や行動の選択結果をもとに、日韓大学生の「恋愛」における考え方

や行動の違いを調査した。

11060010 伊藤 佑太

「若者の表記」

「カ」や「ヶ」を使った小文字表記，ケータイ小説や，ブログに見られる改行スペースを使った「間」などの表記は主に若者が使用するものである。これらの表記は近年のインターネットの進歩，携帯電話の普及などのデジタル文化の発達が生んだと言われている。

そこで本研究では若者のデジタル表記に焦点を絞り，使用実態を調査し分析を行った。その結果，より発音に近い長音表記を表すことができるという特徴があることがわかった。

11060011 今泉まき子

「からあいおせんべ」

「駅名標（識）にはどの字種が大きな文字サイズで用いられているか」「ローマ字表記にはどのような表記方法が採用されているか」「ホーム柱の駅名標（識）に何種類の字種が用いられているか」を調査し，その違いは何に因るもので，規則や基準を見出すべく考察を行った。その上で直接管理元である JR の管轄支社に問い合わせた上で真偽を確かめ，標識・看板の表記の統一性と今後について考えたものである。

11060013 岩本恵理子

「知っているのに使われない敬語」

敬語は社会生活で欠かせないものである。目上の人や知らない人に対して，敬語で話すことが常識となっていると思うが，近年，若い人が敬語を使わない現象が起きている。テレビを見ていると，ボクシングで有名な浪速の3兄弟が敬語を使わずに話をしているのを見ることができる。日本で生まれ，日本で育ったのなら，当然敬語というものを知っているはずである。そこで，知っているはずの敬語をなぜ使わないのか調べてみた。

11060016 海老原麻衣

「語尾の表記」

本研究は，動詞，助動詞の部分の語尾の表記について調査したものである。キリシタン資料を用いて，語彙の室町時代から現代にかけての音の変化や意味の混合等について研究した。

特に，動詞，助動詞の語尾の変化について，卒業研究として調査を行った。

また，ファッション雑誌や歌詞カードも用いて，語尾の表記における変化を中心にみていく中で，カギカッコによる「言う」の代用，「ぢ」の復活，顔文字の使用を指摘した。

11060017 王 莉

「外来語の日本語への影響」

外来語は16世紀から日本に入って来て、日本の老人に多くの不便を持たらずと同時に日本語学習者にも多くの悩みを生み出している。そのため、どのように正しく外来語を使うか学習者にとって重要な問題の一つとなった。外来語がどうして日本人に歓迎されて、また日本語に対してどのような影響があるか。本論文は外来語の歴史から近代日本語に対する影響まで、外来語の影響を重点として音声や標記などの方面に及んでそれぞれ論述を行う。

11060018 大崎 功

「やさしい日本語と弱者とよばれる人たち」

多文化社会を標榜する日本は、今後ますます外国人定住者の受け入れを促進していくであろう。しかし、「地震大国」といわれる日本での彼らの生活はその危機的状況に晒された時、非常に多くの問題を生み出しており、阪神淡路大震災の教訓が、中越地震に生かされない部分も多かった。このようなことに鑑み、外国人定住者への言語サービスはいかにあるべきか、その現状と今後の在り方について俯瞰した。

11060020 岡田 薫

「日本語における省略語構成の変化と使用実態 — KY 式略語の出現 —」

近年、「KY 式略語」という新しい省略語が作り出されているが、これが今までの省略語とはどう構造が異なり、どのような使用実態なのかを研究した。まず、「KY 語辞典」から実際に見聞きしたことがあるという基準で15語を選び出し、それらが実際にどれほど使用されているのかを、インターネットサイトのブログで調査した。その結果、ばらつきはあるものの、女子高生の間で新たな省略語として定着しつつあることが分かった。

11060021 小川 慶子

「色彩語のイメージ比較」

色に対するイメージは、日本人と欧米人、また大人と子どもでは異なるのかに興味を持ち、色に対するイメージ比較を行った。日本人大学生、小学生、欧米人留学生に8色16語から想像されるもの、色の好き嫌い評価、色の入った慣用句の意味をアンケート調査した。その結果、イメージの相違点が明らかになり、また、始めて見た外国語の慣用句を解釈する際、色のイメージから考えた場合と、文脈から考えた場合があるとわかった。

11060022 奥村 達也

「運動を継続的にやっていくにはどうしたらいいのか」

運動を行っていくにあたって、アンケートを通して一人一人の運動状況を知ることと、運動嫌い

の人を好きにさせる方法・手段を自分なりに試行錯誤していきながら考えていくことを目的としている。

アンケートの集計結果を通して現代の学生の運動状況はどうなっているのかを知り、誰でも簡単にできるトレーニング方法はないか検証しながら進めていく。

最終的に、自分に合ったものを実践して続けられるか試してみる。

11060023 尾高めぐみ

「若者の日本語の乱れ」

近年、『日本語が乱れている』と多くの人を感じ、ニュース等で取り上げられている。その中の1つに若者言葉が含まれている。その言葉を使用する現在の若者はどれほど日本語が乱れていると感じているのか、また若者言葉の使用率の変化、新しく生まれた若者言葉、高校生の言葉の現状についてアンケート調査を行い、その結果を分析・比較した。若者の特徴や日本語の現状について考察したものである。

11060024 郭 雪

「曖昧語から見る日本文化と日本人」

日本語を勉強してからよく「日本語はとても曖昧である」という話を聞かされる。曖昧なところや、同じ単語でも全く正反対の意味になったりすることがよくあり、正しい日本語の勉強はできないと思う。本論では、まず日常会話や文法的な面などから曖昧語の言語表現について分析する。それから、日本語の曖昧さを通して、日本人の言語習慣と心理を述べる。最後に、どのように曖昧語を理解するかを説明しようという試みである。

11060025 川崎 祥太

「若者言葉について」

若者言葉とは、中学生から30歳前後の男女が仲間内で使用する言葉のことである。この言葉は、通常という言葉とは異なる特徴を多く持っている。自分自身も知らず知らずのうちに使っているこの言葉の正体は何なのか。なぜ次々と現れては、次々と死語になっていくのか。若者言葉の持つ特徴や機能、使用する目的、年代ごとの若者言葉と歴史背景、そしてなぜ批判対象となってしまうのか、という面から考えた。

11060026 川嶋 理絵

「パニック障害によって引き起こされる症状、その発生要因、及び治療・対処・予防方法について」

最近になって「パニック障害」という言葉を耳にするようになったが、その病気がどのようなものなのか理解していない人たちが多い。心の病気は、心が強い・弱いに関係なく誰しもかかる可能性のある病気だ。まず「パニック障害」にかかってしまった場合の、判断基準、主な症状、更に引

き起こされる病氣，発生要因についてまとめ，そして，その引き起こされる病氣それぞれに対しての対処・治療・予防方法について調べた。

11060027 管 せいせい

「敬語について」

敬語は人の基本的人格を尊重し，人間関係を円滑にするために必要なものだ。大まかに分けると尊敬語，謙讓語，丁寧語の三つに分類されているが，それより，厳密な解釈を目指すと美化語，謙讓語Ⅱを加えた五分類にするべきだと思う。

そこで，まず，敬語の定義と種類を明確にし，さらに，どのような場面，どんな敬語を使うかについて考察した。本研究は，敬語の定義，種類，役割と職場で間違えやすい敬語を取り上げた。

11060028 韓 笛

「若者における方言」

言語は社会生活を営むために無くてはならないものである。だから，人間の社会には，どんな社会でもその社会独特の言語がある。方言は言語を基盤として生まれるもので，長い年月の間に，方言を蔑視から尊重へと人々の意識が方向転換する傾向があって，伝統方言と共通語を混交して若者に使われている新方言になる道である。新方言は，言語変化の一環であり，現在の日本語の動きを示している。

11060029 神田 千裕

「隠語」

誰もが，一度は使ったことのある隠語。その隠語は，どのようにして生まれてくるのか，また，どのような作られ方があるのか調べてみることにした。そして，私が興味を持った，警察用語，医療用語，大学，飲食業界の4つを業界ごとにどのような隠語があり，作りかたでは各業界どのパターンが多く使用されているのか，そしてなぜそのパターンが多くなったのかについて分析した。本論文では，隠語の作り方を13に分類した。

11060030 北爪 章典

「変わりゆく日本音楽産業の見方」

現在，日本の経済は回復の兆しを見せており，数多くの会社が大幅な業績の改善をみせている。しかし，新しい音楽機器や音楽配信により，現在の音楽産業を取り巻く状況は依然として厳しいまま，日本の音楽産業は不況という長く暗いトンネルから抜け出せずにいる。なぜ，この長期不況から抜け出せずにいるのか。日本の音楽産業で何が起きているのか。そしてこれからどう変わっていくのか。アーティスト・リスナーの目線から考えていきたいと思う。

11060031 木原 鮎美

「えグザイル」と「エぐざイル」

同じ音を並べた2～6拍の単語を作り、読んだものを録音する実験を行った。そして1つ1つの語のアクセントを調べた。

仮説は「同じ拍数の場合は同じアクセントになる」「3拍4拍の単語は出身地による差がでるが、ほかの単語はでない」などである。実験では、ほぼ仮説通りの結果が出たが、出身地による差は出なかった。5拍の語はアクセント核の位置が3拍目のものが1拍目のものより多く「エぐざイル」が優勢であることが分かった。

11060032 姜 恩淑

「日本語・韓国語・中国語の敬語表現と感覚の違い」

私が日本語を勉強したときに、日本語・韓国語・中国語の間で敬語の用法に違いがあり、そのまま直訳はできないということに気がついた。それぞれの言葉をうまく訳すには、言葉そのもののほかに、その国の文化や背景を理解する必要があるのだ。日・韓・中の三ヶ国語とその国の文化を学んだ私が、本研究をおこなうことで、これから外国語として日本語・韓国語・中国語を学ぶ学習者に、少しでも役立つものになれば幸いである。

11060034 沓冠 静花

「苗字のあゆみ」

日本には現在30万件近い苗字が存在している。これらの苗字は、その家が暮らしていた地域や就いていた職業などに由来することが多いということが一般的によく知られている。しかし、それ以外の来歴についてはあまり知られていない。そこで、本研究では、「苗字のあゆみ」というテーマで苗字の成り立ちを、日本の歴史的背景から探るために文献調査を行った。その結果、苗字の成り立ちは、様々な制度とも関係していたことがわかった。

11060036 栗本 香里

「嘘に対する意識と使用の理想と現実」

嘘は、全て悪いというわけではなく、やむを得ず嘘をつくこともある。そこで、どのような嘘があるのかなどを中心に研究し、アンケートにより、実際に人はどのような嘘をつくのかなどを調査した。人が許せて必要とする嘘は「人間関係を維持するための嘘」という回答が多く、使用も多かった。しかし、実際場面での行動をみると、「自分を守る嘘」もかなり認められ、罪悪感を強く意識しないで嘘をついているという現実がわかった。

11060037 小池 波子**「外国の人の日本語 ― 学習者の話し方と日本語の特徴 ―」**

外国の人が日本語を話した時、たとえその人の容姿が日本人に似ていても、我々日本人は「外国の人が話している」と認識する。その根拠はなにか。本論文では、外国の人の日本語の特徴を挙げ、また、特に韓国語の発音を取り出して、その音を分析して日本人の発音と比べてみた。また、日本語の特徴も挙げ、どのようなところに気をつければ学習者が日本人の発音に近づけるか、そのポイントを考えた。

11060038 小林 朋代**「現代における KY 式日本語への意識」**

現在 KY 式日本語は、発祥の原点やどんな目的で使用されているのかということはわかっている。しかし、KY 式日本語に対し、様々な世代の人がどんな意識を持っているのかは良くわかっていない。そこで、本研究では 10 代～60 代の方を対象に、KY 式日本語をどう思っているのかをアンケート調査し、ブログでどんな使われ方をしているのかという調査を行った。その結果、どの世代も同じような意識を持っていることがわかった。

11060040 佐々木祐太**「ポライトネスの侵害の対応における実態について ― 大学生に対するアンケートより ―」**

私たちはポライトネスを侵害せずに生きることはできない。そこで本研究では、ポライトネスを基準において 19～22 歳までの若者を対象に調査を行い、使用するポライトネスの種類や表現の違い、共通点をまとめた。調査には、ポライトネスを侵害する場面への対応を問うアンケートを行った。その結果から、今まで言われていた日本人がネガティブ・ポライトネス優勢という事実とは、異なる点が見られた。

11060043 佐藤菜海子**「教師に必要とされる授業準備とは ― 韓国における海外教育実習を元に ―」**

2008 年 9 月、筆者は韓国で生まれて初めて教壇に立つという経験をした。事前に準備をして授業に望んだつもりであったが、実際に授業を行ってみると、なかなかうまく授業をする事ができなかった。

そこで、授業の教案とフィードバックの内容を分析し、失敗した理由を考えた。そして、授業がよりよくなるよう、新しく教案を書きなおし、授業をするために本当に必要な準備とは何かを考え、実践報告としてまとめた。

11060044 眞山 麻美

「若者言葉の必要性」

現代の日本語の乱れとして問題視されている若者言葉に視点を置き、非難的となっている若者言葉に対して、肯定側の立場にたち若者言葉の必要性を見出す。

いくつかの若者言葉の、発生年と語源、意味、用例、会話例、また特徴や特色を挙げ、古くから現在に残っている若者言葉を調査し、使用者数をまとめた。その結果どの程度普及していて、また世の中でどのような必要性があるか分かった。

11060045 サラ アンボルスク

「リンカーン大統領と暗殺者のブースの象徴的な意味及びアメリカにもたらした変化について」

リンカーン大統領と暗殺者のブースの並列および事件当時の社会風景を徹底的に分析することにより、事件の直後から現在に至るまでのアメリカで起こった社会的変更について説明する。

また、以上の項目の説明を基に、アメリカ合衆国は保守主義から離れ、社会的に進歩性を抱く国家に変化を遂げた訳を説明する。さらに、アメリカ人の精神では悪党とされる暗殺者のブースの進歩主義の運動への貢献を取り上げ検討する。

11060046 七田 真人

「ピア・リーディング（協働学習）の実態」

近年、注目されているピア・リーディングは学習者同士が対話をしながらテキストを理解していく活動である。これまでピア・リーディングにおける対話の内容から読みの過程を探る研究は行われてきたが、学習者の情意面に与える効果については、まだ、未知の部分が多い。そこで、本研究では、情意面の効果にも注目し調査を行った。その結果、仲間から知識やストラテジーを学ぶだけでなく楽しいなど情意面にも効果があることが分かった。

11060048 全 ヨンジュ

「韓国語母語話者が日本語のザ行音が苦手な理由について」

韓国人は日本語のザ行音が苦手と言われるが、その原因として考えられるものを日本語と韓国語の対照論文をもとにしながら、考察をすすめる。特に韓国語の音声のみならず、文法や語彙、韓国における日本語教育に関しても考慮しながら、朝鮮語母語話者が日本語のザ行が苦手な理由について、明らかにしたい。

本論文では、音声指導の必要性と、母語別の音声指導の必要性、初級レベルからの指導の重要性を指摘した。

11060049 菅谷 潤

「島耕作から学ぶ異文化と経済」

グローバル社会になった今、日本だけでなく、世界に目を向ける必要がある。予備知識がない状態だと、異国の人たちと接する時にいちいちカルチャーショックをうけてしまう。そのようなことを少なくするためにも、今回、「島耕作」という漫画を参考に、各国の文化や経済を学んだ。その結果、文化と経済はイコールの関係性を持つことがわかり、各国の経済の中の特徴的な部分は自国の文化が影響していることがわかった。

11060050 杉 浩毅

「日本の音楽文化における言語表現とその背景」

現在、数多く存在する日本の音楽文化の中で、ひとつのジャンル、シーンを取り上げ、そのジャンルに付随するいくつかのアーティストの歌詞を取り上げ、その言語表現からアーティストが聞き手に訴えていることを調査した。また、アーティストそれぞれが持つ思想や、その思想がもたらす歌詞への影響、そのシーンが他のジャンルやシーン、社会に与えた影響などを社会的な背景などを含め考察する。

11060051 鈴木 睦人

「若者言葉について」

若者言葉とは、主に青少年が日常に用いる俗語・スラング等で、若者以外はあまり使わない言葉のことである。若者言葉には最近になって使われ始めたものと、古くからあって代々若者に受け継がれるものがあるので、共時的だけでなく通時的に見る必要があるものである。私は、そんな若者言葉の歴史や使われ方、周囲からの反応・印象、特徴や発祥の仕方についてまとめた。調べていくうちに若者言葉の奥の深さを知ることができた。

11060052 孫 家媛

「日本語・中国語と通訳」

翻訳も通訳も起点言語から目標言語への転換を行う言語行為であり、オリジナル・テキストの再現性と受信者にとっての受容しやすさが重視されている。通訳を行うためには言語知識を十分に身につけていることが最低限の条件である。また、毎回違う話題で通訳をする会議通訳者は、一般教養としての世界知識を豊かに持っていることが望ましい。実際の通訳を開始する前には、内容理解と予測のための知識ベースを構築すること（事前準備）が重要である。

11060053 高梨 里菜

「外来語と和製英語について」

日本語の中には、「外来語」と「和製英語」があるが、「外来語」は、どのように使われていて、

語源は何か。そして、いつ、どのように日本に広まったのかを研究した。そこから時代背景、人々の生活の変化などをみる。「和製英語」は、どのような言葉があり、欧米人は本来どのように表現しているのか、そして、「和製英語」が海外で使われているのかを研究した。「外来語」は普段の生活で馴染みがある「食」に的を絞って研究した。

11060054 田口孝太郎

「ファストファッション」

ファストファッションとはファストフードをもじって作られたもので安くトレンドをおさえたものである。不況によって生まれたように思われているファストファッションであるが、それだけでなく様々な理由があり、2000年前後の100年に一度の不況と呼ばれた時期と2009年の不況を比べて論じた。また、ラグジュアリーブランドが不況に強いという考えが崩れた理由とラグジュアリーブランドが再興するための方法を論じた。

11060055 竹田 勇亮

「特撮番組はなぜ変わったか」

特撮番組が変化してきている。そしてその要因を、その変化が顕著である「仮面ライダーシリーズ」を例にあげ、「昭和仮面ライダーシリーズ」と「平成仮面ライダーシリーズ」とを比べ、その物語構成や、作品に対するスタッフの姿勢など、何を指して製作されたか、何を視聴者に見せたかなど、時代による変化を追う。そして、実際に目の当たりにしてきた時代については、自分の周囲の反響なども織りまぜていく。

11060056 趙 あきこ

「第二言語習得幼児の固まり表現からスキーマ生成のプロセス — 相対自他動詞の習得過程に焦点を当てて —」

本稿では、日本語L2の幼児を対象に相対自他動詞の発達過程で固まり及びスキーマ生成が見られるかを検討した結果、(1)発達過程は動詞によって異なり (2)TL/自他用途混合/形態混合の検証段階 (3)TLが多く産出される段階 (4)形態混合へと逆戻りする発達段階を経ている点、また、固まり及びスキーマ生成では、アクセントを固まりとし {○●○○←混ぜって} や「みっけ」を固まりとし {みっけ+□} のスキーマを生成している点を考察した。

11060057 中田 和輝

「若者言葉とことばの乱れの関係」

昨今、マスメディアを通じて耳にする若者に対して言葉の乱れを指摘する声は止むことがない。それが以前から気になっていた私はそれぞれ若者言葉の認識を改めるために、現代の若者言葉だけでなく、古くからある略語や方言、新方言などを対象に、多くの書物、参考資料を通じて調査を行

った。その結果、若者言葉は言葉の乱れとは一様には言えず、言葉の歴史と共に進化、変化している過程の中で派生した、新たな言語である事がわかった。

11060058 中村 香織

「障害児の実態と教育」

障害という基本的な意味を調べてみると、「じゃまをすること」「さまたげ」という解釈がほとんどであった。しかし、多くの文献を読んでも「個性」と書かれている。健常児と違う個性があると考えることが大切である。

そして、障害の種類や日本以外の国とも比較して考え、特に今学校教育で話題となっている発達障害について詳しく調べた。そして、教員にとって障害児教育の知識が必要であることがわかった。

11060059 永木 恵子

「日常にあるオノマトペ」

日本語は、他の言語に比べてオノマトペが非常に多い。これは日本語がア・イ・ウ・エ・オの五つの母音しかなく、この少ない音節を補うために日本人同士でしか分かり合えない微妙なニュアンスの言葉を創り出したのである。

また、日本人のおもしろい志向として、無駄なものを省いて最大限の効果を生みだそうとする。それに適っているのがオノマトペである。だからオノマトペは様々なシーンで多く用いられるのである。

11060061 沼尾 絵馬

「バイト敬語の誤りと正しい使い方について」

普段身近なところで、コンビニで買い物をしたときや、レストランなどで食事をしたときに、従業員の丁寧ではあるが、どうも気になる言葉遣いを耳にしたことが、誰しもあるだろう。筆者も飲食店のホールスタッフ（接客）として勤めているが、同じ職場の従業員の言葉遣いや、自分自身が発した言葉の気持ち悪さなど気がつくことが多い。「どうも気になる」部分に焦点を当て、事例をあげながら、問題点を明らかにする。

11060062 野中 美希

「流行語の歴史と変遷」

今日の日本は情報化社会になり、様々な言葉が氾濫している。どのような言葉が使われたことで流行語として世に溢れて流行るのだろうか。そこで、本研究では流行語の歴史と変遷というテーマで、どのような流行語が年代別に使われているのかを調べることを目的とし、会社や団体が発表している流行語のランキングを対象に、流行語の歴史の調査を行った。その結果、芸人のギャグや政治的用語が流行していることがわかった。

11060064 橋本 知佳

『みんなの日本語』指導案研究

日本語教師にとって、教案は授業をするためには必ず必要なものだ。そこで、『みんなの日本語初級Ⅱ』の38課～45課までの教案を作成し、実際に日本語教育機関の学生に授業をした。その結果、教師が予想していたことに反することが起きたりと教案通り授業をすることはできなかった。しかし、教案通りに授業ができなくても、学習項目などを教師がきちんと理解し、それを学生に教えるためには教案を作成することが重要だとわかった。

11060065 林 洋佑

「十二支字に関する疑問点」

最近では、年賀状程度でしか見られなくなった十二支だが、その年の動物を表記する際に用いられている漢字にはどのような意味、どのような由来があるのか、そのことについて調べた。十二支字と動物の関係性、十二支字のもともとの意味、そして十二支の歴史や当時の中国に与えた影響などを考察し、“そもそも十二支とは一体どのようなものなのか”について、自分なりの結論をまとめた。

11060066 原 由理香

「人を惹きつける理想の人物像」

人は必ず「理想」というものを持っている。それは個々で違ってくる。本論文ではアンケート調査を行い、個々に違う「理想」を性別や年代別にわけ、様々な人物に対してどのような「理想」を求めているのかを見出す。全4章からなる本論文の構成は、第1章で研究テーマの動機や目的を、第2章で先行研究として以前に行われた調査報告を、第3章で実際に行ったアンケート調査をまとめ、第4章で結果を述べている。

11060069 廣田 亜耶

「外来語と和語・漢語の使い分け調査」

中世の末期から色々な文化と共に日本に入ってきた外来語だが、今の日本語には欠かせない存在である。その外来語が日本語の中で、一体どのような役割や使い分けがされているのか調べるために18歳から22歳までの男女35人に同じ意味の和語・漢語と外来語についてのアンケート調査を行った。そのなかで、明確に使い分けされている言葉と、あまり定着していない言葉があった。それらの言葉について研究し考察する。

11060070 福谷 梨江

「日本と中国のことわざに見られる文化の違い——動物に対する捉え方の違いを知る——」

日本と中国は、古来より密接に関わっており、現在は日本にとってなくてはならない国である。

両国共にことわざは数多く存在するが、中でも動物が登場することわざは少なくない。そこで、動物別にことわざを集め、動物に対する感情や捉え方について比較し、日中の文化の違いを調べた。その結果、両国とも感情は時代により変化があり、捉え方については類似点が多いが、感情の表われ方については日中で差異があることがわかった。

11060071 星 紗綾香

「方言について — 若者言葉の使われ方・アクセント（東北地方・関東地方）—」

私たちが使っている言葉は、地域や年代によって違っている。そこで、最近とくに世間で注目されている若者言葉についてアンケート調査を行い、その実態及び地域によっての違いを比較する。若者言葉のアンケート調査は、福島県と千葉県の高校1年生を対象に行う。また若者言葉とは別に、東北地方と関東地方のアクセントの比較を福島県と栃木県で行い、東北地方と関東地方の言葉の使われ方や違いを比較する。

11060072 増田 修三

「レッドリストの日本語教師」

現在の日本には多くの外国人が来日している。ましてや東京やその周りの県を歩けば、外国人を見ない日は、全くと言っていいほどない。日本という国が、国際化へと進んでいる証拠である。

日本に関心を持っている外国の人々が増えている。それに伴って、その人たちが日本語を学習するようになってきている。よって、それに応じて、私たち一人一人が日本語教師をもっと増やしていく努力をしなくてはならないと私は考えた。

11060074 御任 大夢

「純文学と大衆文学という派生の誕生とその変遷について」

大衆小説を読んでいると「下らない本」「為にならない本」を読んでいるという目で周りから見られることが多い。なぜそのような物の見方が世間に広まったのか。それを文学の発祥から純文学、大衆文学というジャンルの発生、そのあり方の変遷、そして現代における扱いを通して考察するとともに、ジャンルを差別している人たちに、そういったものがただの錯覚であることを意識してもらおう一助となることを目的としたものである。

11060075 宮城 茉莉

「沖縄言葉の変化」

現在、方言の衰退は深刻化している。沖縄方言を話す人は高年世代に限られており若年世代は沖縄方言ではなく共通語に影響された新沖縄方言を話していることが明らかとなっている。私はこの新沖縄方言に興味を持った。そこで、本研究では「沖縄言葉の変化」というテーマで文献とアンケートを元に調査を行った。その結果、新沖縄方言は共通語と同じ表現であっても、意味や使用方法が

違うなど沖縄独特の言語が造られつつあると分かった。

11060076 村田 洸輔

「言語習得の認知言語学的アプローチ」

どのようにして子どもは言語を手に入れるのか。本研究では、Tomasello（2003）のアプローチを概観し、言語習得を論じるために何が重要なのかを考えた。その結果、子どもは認知能力——特にヒトに特有の共同注意のスキル——を持っており、それを利用して言語を獲得している。よって、言語習得は認知能力および認知能力の発達と関連させて論じる必要があり、それらを見捨てることはできないとこの研究を通して強く感じた。

11060077 村田 由貴

「安楽死・尊厳死と人の命の権利」

私たち日本で暮らす人々は、この社会で様々な権利を認められ生活している。例えば、表現の自由、住居の自由、営業の自由など、人間として生きていく上で活動するため、その行動を認める法律が存在する。しかしながら、誰もが経験しなければいけない死に関して自由を認める法律がない。誰もが意識する「死」がなぜ認められないのか。認められている海外はどのような過程を経て、そこにたどり着いたか考察する。

11060078 本橋 歩

「女ことばはなくなるか」

近年、女ことばを使う女性が少なくなったと雑誌などで言われているが、なぜ女ことばはなくなるのか調べることにした。その中で、草食男子と言われている男性の発言は、女性のように柔らかい発言をすることがわかった。そこで、草食男子代表の草なぎ剛の文末の言葉を調べた。このことにより、女ことばがなくなったのではなく一部の女ことばは共用化したために、なくなったと錯覚しただけだと分かった。

11060079 森 彩加

「航空会社全体から見る国内エアラインについて」

新規参入や他社との差別化が難しく、他の業界とは特徴を大きく異にする航空業界。日本の航空各社では、軒並み経常利益が黒字決算を繰り返してきた。しかし、それらの収益が関連事業への投資に充てられ、その事後処理で赤字決算に陥っているのが現状である。

そこで、本研究では国内エアラインを対象に、航空業界全体の歴史をふまえ、各社の特徴や成長について調査を行った。

その結果、現在の国内エアラインに必要な戦略が分かった。

11060080 山形 一之

「日本におけるカタカナ演劇用語の変遷」

演劇用語における外来語のうち、「パロディ」と「アドリブ」の二語を取り出し、これらが外来語としてどのように日本語に受け入れられ、時代を経て現在のような使われ方になったのかを研究した。対象の用語の語義、語源、演劇用語としての使い方、受け入れた言葉は日本語にない概念だったのか、などの観点から検証を行った。また、現在の使い方との比較を行い、対象の用語が時代を経てどのような変化をみせたのかを考察した。

11060081 山岸 宏明

「学習者の言語運用能力の実態とその変化の観察と分析」

日本語運用能力とは、学習者自身がメッセージを日本語にするときに起こる問題を解決し、構成する力であると考えられる。言語項目の習得については多く研究されているが、言語運用能力の向上に関する研究はあまり見られない。そこで、本研究では学習者の言語運用能力の実態とその変化の縦断的、微視的な観察を目的に、学習者の産出をタスクを通して調査分析をした。その結果、学習者に対する援助が言語運用能力に関わっていることがわかった。

11060082 山口 剛

「副詞『全然』の意味・用法研究」

近年、主に若者の間で「全然良い」、「全然大丈夫」などの表現が多く用いられている。私個人としては「全然」という言葉は「全然出来ない」などの否定的な意味合いのみで用いていると思っていたため、この「全然良い」などの肯定的な表現に違和感を覚えた。

時代の変化に伴い言葉も意味や用法が変化するものである。そこで「全然」本来の意味や用法について調べると共に、「全然」という言葉の変化を探っていくことにする。

11060084 余 明豪

「日独台における現在のタロットカード用語の使用実態」

現在のようにタロット占いがポピュラーである日本、ヨーロッパ（特にドイツ）と台湾でタロットカードに関する用語の使用実態を調査する。本稿では現在の日本、ドイツと台湾において市販のタロットカードを紹介している書籍に基づき、三言語においてタロットカードを紹介する訳語と意味を考察する。原文ドイツ語、および台湾のタロットカードで使用されている中国語はその直訳で日本語との対照研究を行う。

11060085 葉 媛

「日本人の曖昧語について」

日本人は曖昧な言語を喜ぶから、食い違いを隠すには、問題の実質を回避して、衝突や矛盾の激

化を避ける。曖昧語は日本文化の中の最も重要な特徴の一つである。本稿では、日本語がもつ背景として、言語のこの鏡によって、日常生活の中の曖昧な表現を研究し、さらに曖昧語が生じる原因を分析する。その結果、日本の伝統文化を尊重し、日本人の含蓄があり、「和を以て尊重する」という性格を理解する。

11060086 横山 良太

「日常生活を題材にした敬語の研究」

これから社会に出ていく私たちにとって、必要不可欠である敬語。しかし、「最近の若者は言葉づかいがなっていない」「礼儀がなっていない」などと、少なくとも思われているであろう。いざ、自分が社会に出たときにそんなレッテルを張られたくはない。敬語の本質を理解し、その状況に応じた適切な敬語を使いこなせるようになりたい。そんな考えから、日常会話やビジネス敬語を題材にし、研究していく。

11060087 劉 暢

「外国人から見た日本語」

日本語を選んで専門として習っているのは、日本語と縁があったからだ。この研究は深くなればなるほど面白くなる。しかし、日本語を習うことはそんなに簡単なこととは言えない。情熱を注がないと日本語の親切な感じを出せるようになれないと思う。それに、日本独特の歴史で、日本人が複雑な性格を持っている。そこで、外国人の視点から、日本語の中の文字・語彙、敬語、方言の三つの方面から少し分析していきたいと思う。

11060088 渡辺 藍巳

「J ポップ歌詞の変化」

J ポップは今最も日本人の生活に浸透している音楽である。J ポップというジャンルが確立されて以来、どのように変化を遂げてきたのだろうか。一昔前の曲が流れると「古くさい」と感じる。そこに根拠はあるのか。1970～2000年の年間売上10位内の歌詞を比較し、分析する。主に単語に焦点をあて、昔は用いられなかったのに、今日では使用されるようになった言語、またそれらの活用による曲の存在意義をまとめた。

11060089 渡部 香織

「看板や標識の色や書体について」

看板や標識には効果的に伝える工夫がなされている。いろいろな色や文字でデザインするのがその工夫だ。これらにはなにか決まりがあるのか、自分の地元の駅の周辺の全ての看板と標識を対象にその手法について検証した。

その結果、書体については、公共の看板・標識はゴシック体の丸文字タイプが主だった。色につ

いては、和風飲食店の縦長の看板は、上部に赤色で扱っている商品（酒）、中央に黒色の筆文字タイプで店名を表記していた。

11060090 渡邊 麗那

「テレビ業界」

テレビ番組制作会社の仕事現場に来年から加わる。そこで現場でみて感じたこと、また、アンケートでは視聴者からみた人気バラエティ番組はなにか、またそのバラエティ番組はなぜ人気なのかについて、番組の追求をおこなった。その結果、テレビ番組にはそれぞれの特徴があり、ただのバラエティ番組でくくるのではないこと、そして、テレビの影響力の底知れない力がわかった。

11060091 伊藤 舞

「太宰治と女性達」

生誕100周年を迎え、今もなお多くの人々に愛され続けている作家、太宰治。彼の生い立ちから学生時代、小説家時代など生涯を振り返る。それと共に、なぜ太宰は数多くの女性達から愛されたのだろうか。美男子で、育ちが良い。しかしどこか不良な面も持っている。女性達の心をつかんで離さない、そんな彼の魅力について調べた。

また、太宰と関係があった女性達の生涯や太宰との出会いや過ごした日々などにも焦点を当てた。

11060901 李 美善

「現代人の漢字の離れによる未来社会と漢字」

日本語は難しい言葉だといわれている。最も大きな要因を挙げれば、まさに漢字である。漢字は書くのが難しいと言われてきたが、近年ではワープロやケイタイの普及によって、複雑な漢字も辞書なしで簡単に書けるようになった。だから、現在では、書き方よりも、読みの方が問題になっている。しかし、漢字を正しく読むことは容易ではない。読めない・書けない漢字の問題点と、その社会的背景についてまとめてみた。

11060902 許 海英

「日本語格助詞『に』と中国語介詞の対照」

中国の日本語学習者にとって、最も理解しにくい、間違いやすいのは、日本語格助詞である。中国人は「を」を“把”，「に」「で」を“在”，「と」を“和”，「の」を“的”，「から」を“開始”と思う人が多い。日本語格助詞を中国語に翻訳すると、中国語の介詞となる。格助詞「に」に注目して調べた結果、格助詞「に」は中国語“在”の訳し方だけでなく、「に」の用法によって、訳し方もいろいろあることがわかった。

11060903 呉 丹

「日本語学習における異文化教育の方法——中国人学習者を対象に——」

21世紀は異文化コミュニケーションの時代であり、グローバル化がさらに進展していくと思われる。異なった文化の背景を持つ人が共に生活し、共に働くということが当たり前の社会になることが予想される。このような状況における異文化教育の方法に見直しが必要になってきた。コミュニケーション能力の養成は言語教育の重要な目標になってきた。本研究では異文化教育についての方法を再検討する。

11060904 邵 婀娜

「近年外来語の使用率と理解度——外来語教育への提言——」

日本語には様々な外国の言葉が取り入れられている。ポルトガル語、オランダ語、英語などの例があり、現在もこの状況は続いている。しかし、現代の外来語の理解度は25%しかない。日本人にも分からない外来語は、外国人にとってさらに難しいという思いがあって、今回の調査を行い、外来語の使用頻度・増えていく原因・外国人学生の学習要望などの各方面から考察し、最後に外来語教育への提言も論述した。

11060905 徐 依華

「営業から企画営業へ」

広告業界において企画営業というのは、「アカウントプランナー」という職種が日本に導入され、それが翻訳されたものである。ところが、これが日本に紹介されたのがバブル崩壊直後（いわゆる接待営業が通じなくなった頃）で、時代は提案型・企画型の営業を求めていたので、そんなニーズに沿って「アカウントプランナー」を翻訳した「企画営業」という言葉が勝手に独り歩きして広まっていったと考えられる。

11060906 徐 陽

「言語表現におけるオフィスでの好感度について——OLを対象として——」

現代では多くの女性が社会に進出し、その結果、地位も向上した。OLは様々な人と接し、人に親しみを与えることができるために好感度の高いコミュニケーションをすることが重要になってきた。

外見から受ける印象も大切だが、たいいてはその人の話し方が重要なポイントになっている。つまり、言語表現で好き嫌いが決まってしまうといっても過言ではない。本研究は調査結果から、考察する。

11060907 陳 秀琴

「カタカナ語の難しさ ― 中国人日本語学習者の対象 ―」

近年、日本語を習得する中国人学習者が増えつつある。特に、日本語における問題は続々と生み出されているカタカナ語である。中国人は日本語表記の中、カタカナ語が一番苦手である。カタカナ語の単語数が増える一方で、姿が消えていく数も少なくない。そこで、カタカナ語の歴史、変遷と乱れ、また、抱えている問題点などを探り、分析し、新たな学習方法を考察する。少しでも中国人日本語学習者のカタカナ語の学習に役立てたい。

11060908 野沢 えり

「現代の歌詞の重要性」

最近の売れている音楽を聴いていて、自分が中学、高校の時に売れていた曲に比べると、ストレートな気持ちを歌っている音楽が売れているように思えた。今売れている曲はすべてストレートな歌詞が多いのか、過去のヒット曲と比べてどう違うのか、過去の曲はどのような風に歌詞を書いているのか調べてみる。歌詞は音楽にとってどんな重要性があるのか、言葉とはどのような重要性があるのかを過去と現在の歌詞を比べながら考察した。

11060909 苗 国帥

「日本語の国際化」

あるひとつの言葉が「国際性」を持つということは、その言葉が帰属する国家・民族の国際的な地位の向上と密接に結びついている。ある「力」を背景とした言葉の優位性を追求することは、危ないことである。かつて、日本は、軍事力を背景に日本語の強要をした歴史を持っている。言葉はその地域の民族文化や感性と深く係り合っているものである。現在の「日本語熱」は彼らが自発的に修得しようとしていることである。

11060910 李 幸瑜

「哈日族（ハーリーズ）における J-POP の魅力」

「哈日族」とはいわゆる日本が大好きな若者達の総称である。音楽、ファッション、マンガ、ドラマなど、日本の物なら、とにかく何でも好きという若者たちのことを指す。現在、台湾では、そういう日本ブームが一種の社会現象になっている。J-POP やコンサートを見るために、日本に留学する人も少なくない。哈日族は J-POP の中でどんなジャンルが好きか、誰が好きか、なぜ好きになるか、明らかにする。